

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	淡路市立一宮小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	地域とともに育む、笑顔あふれる一宮っ子

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至る経緯

本校は、淡路島の北西部に位置し、豊かな自然・歴史と文化・産業などの環境に恵まれた、今年度創立10年目となる統合校である。校区は、海と三方の山に囲まれた扇状の丘陵と平地にある、郡家・尾崎・山田・江井、4つの地区（旧小学校区）からなる。

本校では、創立以来、地域の支援者の協力を得ながら、4つの地区の特色を知る「ふるさと学習」に取り組んでいる。地域に出かけ、地域の人々と触れ合いながら行う活動を通して、児童のふるさとへの愛着は深まり、自己有用感・自己肯定感が育まれている。

創立10年目となる今年度、地域の教育資源を見直し、地域教材の発展的開発と地域人材の発掘、持続可能な「共育（ともにそだてる・(大人自身を含め)ともにそだつ）」システムの構築を行い、児童の人やふるさとを介する心の育成を図るため、この活動を行った。

2. 活動・研究の目的・ねらい

- ・地域に根を張り、人々に愛される子になってほしいという願いのもと、「笑顔があふれ あいさつがひびきわたる学校（地域）」を合言葉に、家庭・地域とその目標を共有し、連携・協働して「共育（ともにそだてる・(大人自身が)ともにそだつ）」する学校づくりを進める。
- ・校区の自然、歴史や文化、産業等の豊かな環境を生かした活動や、地域の人々との触れ合いを通じて、児童のふるさとへの愛着を深めるとともに、自己有用感や自己肯定感を高める。
- ・地域教材の発展的開発と、地域人材の発掘と持続可能な「共育」システムを構築する。

3. 活動内容

【各活動の概要】

- A：古事記に描かれた天地創造の物語「国生み神話」を基にした神楽を、地域の方から学び、児童朝会で神楽舞いを発表した。
- B：教職員と学校評議員、PTA 役員が参加し、地域教材・地域人材を活用した児童の自己有用感・自己肯定感を育成するカリキュラムづくりと持続可能な仕組みづくりに向けた研究・研修を行った。
- C：郡家地区を徒歩で探検し、地域の人々と触れ合いながら地域のよさを発見した。その後、マップを作成し、自分たちが発見した地域の魅力を保護者や全校生に向け発信した。
- D：山田地区に出かけ、野鳥観察を通して自分たちの身近に豊かな自然があることを実感した。
- E：江井地区に出かけ、地域の人々と触れ合いながら田植え・稲刈りを体験した。事前には、江戸時代この地区では水路がなく米作りが難しかったこと、そして米を作るために命がけで水路をつくったという話を聞き、地域で受け継がれてきた産業のありがたさを知った。
- F：郡家川周辺の緑化を図るため、地域の人々と協働して草刈りを行った。
- G：宍粟市立一宮北小学校との「海と山の交歓会」を通じて、互いの地域のよさを伝え合いながら交流を深めた。（統合前、旧津名郡一宮町立郡家小学校が行っていた、宍粟市一宮北小学校(旧宍粟郡一宮町立三方小学校)との交流活動。この「海と山の交歓会」は、統合後も継続し、今年度で64回目となる。）



A 神楽舞いの発表



E 読み聞かせ【灌田洞門】



G 海と山の交歓会《海編》

伊弉諾神宮見学



G 海と山の交歓会《山編》

地域のよさを発表



カニの放流



H 「チドリ」学習

尾崎海岸での観察

H：百人一首 78 番「淡路島 通ふ千鳥の鳴く声に 幾夜ねざめぬ 須磨の関守」に詠まれ、淡路市の鳥でもある「チドリ」が絶滅に瀕していること、そして島内では江井海岸や尾崎海岸での生息数が多いということを知り、自然環境と自分たちの生活との関連や自然環境を保全することの大切さについて学んだ。

活動日	学年等	活動内容	購入物品等
通年	4・5・6年 教職員等	A 神楽クラブ（神楽舞い）	
		B 地域学校協働活動・キャリア教育研究	研究図書
5月1・8日	3年	C 校区たんけん	
5月9日	3年	D バードウォッチング①	双眼鏡・フィールドスコープ
5月26日	5年	E 田植え体験	
7月5日	5年	F 地域合同緑化活動	
7月7日	6年	G 海と山の交歓会《海編》	
7月27日	教職員等	B 地域学校協働活動に関する研修会	講師招聘
8月30日	教職員等	B 地域学習に関する研修会	講師招聘
9月25日	3年	C 校区たんけん 地域の魅力発信	ICT 機器活用
9月26日	5年	*読み聞かせ〔灌田洞門〕 E 稲刈り体験	
11月6日	5年	H 「チドリ」学習	双眼鏡・フィールドスコープ ICT 機器活用
11月15日	3年	K ミカン農園見学	
11月22日	5年	G 海と山の交歓会《山編》	
11月29日	3年	I イチジクづくりのお話	
1月22日	4・5・6年	A 神楽クラブ 児童朝会での発表	
3月1日	4年	J 香育	
3月5日	3年	D バードウォッチング②	双眼鏡・フィールドスコープ
3月11日	教職員等	B キャリア教育に関する研修会	講師招聘

I：尾崎地区のイチジク農家の方にお越しいただき、美味しいイチジクを作るための苦労や工夫のお話を聞かせていただいた。

J：江井地区の線香づくりを通して地域の気候や歴史、人々の生業などについて学んだあと、香育としてお香づくりを体験した。

K：山田地区のミカン農家に出かけ、美味しいミカンを作るための苦労や工夫のお話を聞かせていただいたり、収穫の体験をしたりした。



K ミカン農園見学

4. 子どもたちへの効果（成果・課題）

今回の取組を進めるにあたり、専門家の方を招き、地域の方々とともに地域学校協働活動の意義とその活動の展開方法等を学んだことが成果に結びついた要因の一つである。さまざまな活動を展開する中で、子どもたちは、地域の人々と触れ合い、顔と名前が一致する関係を築くことができた。そして、地域の方が自分に声を掛けてくれている、褒めてもらえた実感できたことで、自己の存在意義や地域の役に立つことができた自分を感じることができた。また、支援者の方々が自ら教材開発をしてくださったり、持続可能なシステム構築の必要性を感じてくださったりしたことは、大きな成果と言える。

多くの活動を実施するには、連絡・調整や打ち合わせといった業務が伴うことが課題となる。しかし、それ以上に、一年を通じて子どもたちの笑顔があふれる日々となったことは何にも代えがたいことである。今後も、地域が一体となり、子どもたちを「共育」する中で、大人たち自身が「共育」する。そんなまちづくり・学校づくりを続けていきたい。そのために、このシステムがさらに機能的に、また支援者の輪が広がり持続可能なものとなるよう、地域の方々との連携・協働をより一層深めていきたい。